

ガーナでお絵描き
くれよん プロジェクト 388号

昨夏の一時帰国の際に、国際理解の授業をさせていただいた埼玉県上尾市立上尾東中学校2年生の生徒さんから贈られた習字がきっかけとなって作った“世界で一枚だけの手ぬぐい作り”今夏も2年生7クラスで授業をさせていただきました。その際に各クラスから習字を頂き、ホーム2の授業で取り組むことが出来ました。ガーナの学校にはその学年に見合った年齢の子どもが在籍する以外では年齢が上の子どもも在籍しています。ホーム2“中学2年生”であっても15歳の子どももいたりするのです。しかし、日本の学校の中学2年生が贈ってくれたこともありガーナでの文化交流授業の一環としてホーム2での取り組みをしています。



日本語でなんと言ったのかと、その意味を伝えてから授業開始です。もちろん、日本の文化“てぬぐい”の使い方もジエスチャーを交えて説明します。被った

り、汗を拭ったり、物を包むことが出来るのが手ぬぐい。子どもたちは、思い思いに作り始めました。



ガーナ北部にはMMAという都市があります。発音もそのまま“ワ”です。そうした背景もあってまた日本語の和の持つ意味もガーナの国民性をあらわしているのか？和を書く子ども割合が多かったです。

この“世界で一枚だけの手ぬぐい作り”を継続出来るプロジェクトにしたいとただいま考えています。日本の文化をガーナで作り出だす。たくさんの課題がありますが、進行していきたいと思えます。



報告2014年11月14日 TOSHINO



協賛 ペンてる株式会社様“布描きえのぐ”